

# Bayreuth-Festival Violinquartett



## バイロイト祝祭 ヴァイオリン・クアルテット

1876年にリヒャルト・ワーグナーが自作の楽劇を上演する為に始めた世界で最も古い歴史を持つ音楽祭である。その会場となる〈祝祭歌劇場〉も、当時既存の劇場に満足出来なかった彼自身が設計し、メルヘン国王として知られるバイエルン国王、ルードヴィッヒ2世の絶大な援助を得て、バイエルン州バイロイト市北の小高い丘の上に建てられた。以後音楽祭は夏に、世界中から選りすぐりの指揮者と歌手を集めて開催され、2017年で106回目を迎える。

そこで演奏する〈祝祭オーケストラ〉は、ドイツを主に、ヨーロッパ各国から「夏の休暇を犠牲にしてもワーグナーの作品を演奏したい」という熱意を持つ優秀なメンバーを集めて編成され、練習公演を合わせ約10週間の間、ワーグナーの楽劇だけを集中して演奏する。〈バイロイト祝祭ヴァイオリン・クアルテット〉は、2005年夏、そこに多年参加している第1ヴァイオリン奏者4人(全員ドイツ国内で確固たるポジションを持つ)により結成され、

祝祭オーケストラ唯一の室内楽アンサンブルとして長年演奏活動を続けている。〈ニュルンベルクを中心に、バイエルン州北部を総括する経済産業文化圏の文化使節〉の称号を得、主に音楽祭開催中、バイロイトやその近郊を中心に、またニュルンベルク、ドレスデン、ベルリン等のドイツ各地でのコンサートに加え、2009年にはブリュッセル、日本に招かれ「大変楽しく、しかも充実した演奏」と絶賛を博した。ワーグナー生誕200年を記念する2013年には、〈東京・春・音楽祭〉の招きで再度日本に招かれ好評を得ている。

2009年秋、東京浜離宮朝日ホールでのコンサートのライブ録音によるCD『響きの旅』は、日独両国の批評家から好評を得た。2015年5月、結成10年を記念するベルリン、オエルベルク教会でのコンサートをライブ録音した2枚目のCD『バイロイトのカーニバル』も、ドイツの月刊〈オーケストラ〉誌で好評を得、また日本の〈レコード芸術〉誌でも海外盤の項で紹介され絶賛を博している。

### 第1 ヴァイオリン ベルンハルト・ハルトーク Bernhard Hartog

ビーレフェルトで生まれる。ハノーファー音楽大学でヴェルナー・ホイトリックとアントン・ゲルトラーの許で学ぶ。同大学卒業後、ベルリン・フィルハーモニーに第一ヴァイオリン奏者として入団。その後ハノーファーのオペラ・オーケストラの第一コンサートマスターを経て、1980年豊田耕児の後任としてベルリン・ドイツ交響楽団の第一コンサートマスターとなり、2014年に定年退団。1987年からはバイロイト祝祭オーケストラで同じポジションを務める。その間ソリストとしてウラジミール・アシュケナージ、ケント・ナガノ、リッカルド・シャイー、インゴ・メッツマッハーなどの指揮者と共演。室内楽の分野では、ハルトーク弦楽四重奏団のプリマリウスとして、ハイドン、シューベルトの弦楽四重奏曲全曲演奏を成し遂げた。また、ベルリン・フィルハーモニー弦楽六重奏団のメンバーも務めた。現在も、ベルリン音楽大学(UDK)で教鞭をとっている。

### 第2 ヴァイオリン ミハエル・フレンツェル Michael Frenzel

ゲルリッツで生まれる。5歳の時から母親の許でヴァイオリンとピアノのレッスンを受ける。その後、ドレスデンの音楽大学でラインハルト・ウルブリッヒの許で学び、在学中、国内(旧東ドイツ)やポーランドの多数のコンクールで受賞。1973年卒業と同時にドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。1975年シュターツカペレ・ドレスデンに第一ヴァイオリン奏者として移籍、1978年から第二コンサートマスターに就任し2015年11月に定年退団。1996年よりバイロイト祝祭管弦楽団のメンバー、東京におけるスーパー・ワールド・オーケストラのメンバーでもある。室内楽の分野では、ヴィルトオーフ・ザクソニア、ドレスデン室内ソリスト、そしてドレスデン・ソリストのメンバーとして活躍している。

### 第3 ヴァイオリン ウルフ・クラウゼニッツァー Ulf Klausenitzer

バード・ナオハイムで生まれる。フランクフルト、ケルン、パーゼルの音楽大学に在籍。その間、ヘンリック・シェリング、レオニード・コーガンのマイスターコースに参加。さらにロンドンに留学、アマデウス・クワルテットのノーベルト・ブライニンの許で室内楽を学ぶ。その後マンハイム、ザールブリュッケン、そしてニュルンベルクのオーケストラのコンサートマスターを歴任後、1980年にニュルンベルク音楽大学の教授に就任、2009年定年退職後も教鞭をとっている。1979年にバイエルン室内オーケストラを創立し、2007年辞任するまで総責任者兼指揮者として尽力、国際的にも高い評価を受ける。その業績に対し、国内外の数多くの賞を受賞。1980年からバイロイト祝祭管弦楽団のメンバーとなり、2004年以降その代表委員を務める。室内楽の分野でもドルンブッシュ弦楽四重奏団のメンバーとしてジュネーブ国際コンクールで受賞。2002年から10年間、ヨーロッパ弦楽器指導者協会(ESTA)のドイツ副会長を務めた。2012年にはチェコ、スロヴァキア両共和国から〈Thomas Bata's Award〉を授与される。

### 第4 ヴァイオリン 眞峯 紀一郎 Kiichiro Mamine

東京で生まれる。5才の時から松本で鈴木鎮一に師事。松本深志高校卒業。1964年国立音楽大学卒業と同時に、新創立の読売日本交響楽団に入団し、1966年第1ヴァイオリン首席奏者となる。1969年旧西ベルリンに留学、豊田耕児の許で学ぶ傍ら、ベルリン音楽大学で室内楽を学ぶ。1970年ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団に入団し、2006年定年退団。その間、ベルリン・フィルのエキストラとして、カラヤン指揮のコンサートや演奏旅行にも数多く参加する。1973年より2008年までバイロイト祝祭管弦楽団のメンバー。室内楽の分野では、1977年ベルリン・フィル弦楽ソリストのメンバーとなり、ドイツ国内、日本を始め世界各国への演奏旅行に参加、数々のCDや放送録音、テレビ収録をしている。1982年以来、ベルリンのウィルヘルム皇帝記念教会で隔週にバッハのカンタータやミサ曲を演奏するベルリン・バッハ合唱団の理事、バッハ・コレギウムの責任者を務めている。2006年から「スズキメソード」の指導者として、ベルリン、フランクフルト、バイロイトで子供達の指導を開始し、ドイツ各地での講習会にも客員講師として招かれている。夏の休暇中には、ミュンヘン郊外のシュリアー湖畔で、毎年開催される子供の為のワークショップ「MUSIC ATELIER」で、指導に当たっている。

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

## 宗次フレンズ 会員募集

会員登録していただいたフレンズ会員様は  
一般発売より先行してチケットをご購入頂けます

## 会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール(052-265-1715)までお問合せ下さい。

交通アクセス  
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分

くらしの中にクラシック

## 宗次ホール

Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008  
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716  
E-mail info@munetsuguhall.com  
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター  
営業時間:10:00~18:00  
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)